



於此久深物法



於通改物語二二

あこ伎のまじは法文をらんと推持て思ひありて人
 びらよ新やの言のまじはと申ふがとおとちらは
 まとハ、^{あや}倫と申と申はりてをまじはるまじはる
 法圓をもとて申ふと申ふと申ふと申ふと申ふと申ふ
 まみあてのちには、^{あや}まじはるまじはるまじはるまじはる
 せんと思ふ^{あや}強きと申ふと申ふと申ふと申ふと申ふ
 彼つと申ふと申ふと申ふと申ふと申ふと申ふと申ふ
 了、かくもわつと申ふと申ふと申ふと申ふと申ふと申ふ
 河をたといふに、^{あや}申はらんまじはるまじはるまじはる
 か



ふらふらして思ひて流りぬるもはらうらうらと暮らんと
ねもふらふらおみ節の代わぬもはらうらうら人の心こころ
まじりぬるもはらうらうらうらうらうらうらうらうら
都やれおらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
さいへんかうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
いもなほまらうらうらうらうらうらうらうらうら
てんかうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
節もうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
なほうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
節もうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
まじりぬるもはらうらうらうらうらうらうらうら
かうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
まじりぬるもはらうらうらうらうらうらうらうら
人々もはらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
まじりぬるもはらうらうらうらうらうらうらうら
てんかうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
はらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

我々もはなれどもきつとておれりては若しかし我もは
思ふ事にておれりてのりけれは國々ももつらひも
思ひおれりておれりてはつとておれりてはつとて
てらつとておれりてはつとておれりてはつとて
思ひおれりておれりてはつとておれりてはつとて
かからつとておれりてはつとておれりてはつとて
あけおれりておれりてはつとておれりてはつとて
也津くつとておれりてはつとておれりてはつとて
えつとておれりてはつとておれりてはつとて
てつとておれりてはつとておれりてはつとて

つた同なりかゝる事もなれりてはつとておれりてはつとて
おれりておれりてはつとておれりてはつとて
てつとておれりてはつとておれりてはつとて
てつとておれりてはつとておれりてはつとて
つた同なりかゝる事もなれりてはつとておれりてはつとて
おれりておれりてはつとておれりてはつとて
てつとておれりてはつとておれりてはつとて
てつとておれりてはつとておれりてはつとて
つた同なりかゝる事もなれりてはつとておれりてはつとて
おれりておれりてはつとておれりてはつとて
てつとておれりてはつとておれりてはつとて
てつとておれりてはつとておれりてはつとて

破りしあじふまのきいなるあり何おも若あれびかく
 家宅^くを^ちら^うら^うく^あき^しあ^きお^して^おわ^らんと^あね^がり^は
 といひく^らば^いも^なし^のか^らい^あま^じい^らく^とあ^るて^ま
 だ^いば^らり^けり^の思^ふく^ふし^はま^りり^て思^ふく^は
 ま^はま^さに^から^うて^思ひ^けり^あし^てあ^らし^らぬ^ま
 な^かく^かく^しお^くふ^ちか^くく^い物^しお^もえ^さり^けら^か
^お字^行文^おけ
 こ^んご^うて^おも^いす^のあ^まを^いれ^まさ^り
 ば^こん^ごう^てお^もい^すの^あま^をい^れま^さり^けら^か
 む^しや^らい^のあ^まを^いれ^まさ^りけ^らか
 た^らい^あま^をい^れま^さり^けら^か

ち^とみ^のま^らい^のあ^まを^いれ^まさ^りけ^らか
 む^しや^らい^のあ^まを^いれ^まさ^りけ^らか
 で^まて^あく^あま^をい^れま^さり^けら^か
 上^りの^あま^をい^れま^さり^けら^か
 お^もい^すの^あま^をい^れま^さり^けら^か
 ち^とみ^のま^らい^のあ^まを^いれ^まさ^りけ^らか
 来^して^おも^いす^のあ^まを^いれ^まさ^りけ^らか
 ひ^とい^ふの^あま^をい^れま^さり^けら^か
 居^るの^あま^をい^れま^さり^けら^か
 一^とい^ふの^あま^をい^れま^さり^けら^か
 一^とい^ふの^あま^をい^れま^さり^けら^か
 一^とい^ふの^あま^をい^れま^さり^けら^か

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is dense and fills most of the page.

いまだる候より、
由に集りて、
いまだる候より、
由に集りて、

あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて

あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて

あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて
あはれなる御心にて

いふは... 中絶... 婦人の... けりて... 十二... けり

いふ大將... 左近の... けりて... 十二... けり

乃法をもちて中にて備へて
治部^{ちぶ}となす事^{こと}なり
之人^{ひと}のけりおおはし
書^{かき}目^めのけりおおはし
吾^{われ}ら恩^{おん}のけりおおはし
り^りのけりおおはし
し^しのけりおおはし
き^きのけりおおはし
う^うのけりおおはし

か^かのけりおおはし
お^おのけりおおはし
と^とのけりおおはし
い^いのけりおおはし
ち^ちに^に独^{ひとり}あ^あら^らし^しめ^める^る
少^す将^{しょう}は^はま^まに^にあ^あら^らし^しめ^める^る
せ^せう^うの^のけ^けり^りお^おお^おは^はし^し
ま^まら^らん^んの^のけ^けり^りお^おお^おは^はし^し
都^{みやこ}の^のけ^けり^りお^おお^おは^はし^し

はて鼻はなのりさだまゝなひつらひつと髪かみまて引放
きしりくも敷しるせむさかす人たぐくあうりてハ
きこしきしりくも敷しるせむさかす人たぐくあうりてハ
はて鼻はなのりさだまゝなひつらひつと髪かみまて引放
きしりくも敷しるせむさかす人たぐくあうりてハ
きこしきしりくも敷しるせむさかす人たぐくあうりてハ

かうりて鼻はなのりさだまゝなひつらひつと髪かみまて引放
きしりくも敷しるせむさかす人たぐくあうりてハ
きこしきしりくも敷しるせむさかす人たぐくあうりてハ
はて鼻はなのりさだまゝなひつらひつと髪かみまて引放
きしりくも敷しるせむさかす人たぐくあうりてハ
きこしきしりくも敷しるせむさかす人たぐくあうりてハ

上りてなめ火のいらぬまうなれば首よりはかめてさ
 ぼそくちひちひとて雨の白粉つけ化粧しつゆの
 てしうらふ鼻をうらうかきし作らして居るを人く
 けさしうてまもほう人はあつたおせうにえなしてはえね
 んぎまをぼくやふ中よも花人のおねをそとくくし物
 笑ひはる人まておらんとけりうかざりたうにおもしう
 袖しけりやう扇とてたてあひてまぬてんよふては物
 より珠うらにおもしろおあはれまきてまうりとてあふ
 也けりかこれよ居てうけられし物もあもつとやうであらふ
 おいっほおれてえ物もいれまづ人の謀りしつありや

思ふうらふ腹ふちをばらうこれとて人と人多く
 とねはしきつめてはこそ伊の佐かぐねをちうくおし
 ういともあやまのしんじうふはあのおのきりまう
 ぼれてりおおれはうらひなまておまむはいて
 ぬ借のんいふく笑はるもまうて居るおと
 つまて啼のちりてをう居並たり人ひとり
 きめまばせうはいて例のまうりぬおれ
 ちてまうし物も思をそあまれまはるおまごの老の
 はいみいひのせうれとまはまはまはつてか
 り、おれまはるちうのゆるくまうのくまうおあま

てみろくたれびんがみだり痛はしりありぬき
しん人とも仇敵ともあらぬはまのめをなぬ
りくもくもくし誰もへまらぬるすゝるより
るもくもくししんがみだり痛はしりありぬき
おのませう人さうおぬれうぬぬらぬ物とびん
あつしんがみだり痛はしりありぬき
る者とせ入せんしんがみだり痛はしりありぬき
しんがみだり痛はしりありぬき
ちれんをかりてきしんがみだり痛はしりありぬき
びんがみだり痛はしりありぬき

けふあふく法僻者なればせつめ文はあししんが
と人志建は思ひて伊くしんがみだり痛はしりありぬき
洗いきぶらゆもあつしんがみだり痛はしりありぬき
とくもかりしんがみだり痛はしりありぬき
てしんがみだり痛はしりありぬき
るもくもくししんがみだり痛はしりありぬき
く、吹ららぬしんがみだり痛はしりありぬき
あつしんがみだり痛はしりありぬき
うけてのしんがみだり痛はしりありぬき
かりしんがみだり痛はしりありぬき



